

Book & Video 「消化器超音波内視鏡検査法」

監修 中澤三郎・川井啓市
編集 多田正大・芳野純治・山雄健次

東京女子医科大学教授・消化器内科

竹 本 忠 良

1週間前、『狐の書評』という本が出た。日刊ゲンダイの、「タバコの箱を二つ並べたほどのスペース」(あとがき)の書評ページに書いた、〈狐〉氏の「匿名書評の集大成」だそう。出版社は、[本の雑誌社]だ。こうなると、出版元まで、〈狐〉に縁があるのかと惑う。更に、ここに取り上げられた本を、ほとんど読んでいないことに、やや愕然としている。

辛うじて、私が読んだ本として、『中国の鬼』(筑摩書房)があって、この書評の枕に、「エッセイストという肩書の値打ちが落ちている。自称・他称の『エッセイスト』が低コストで量産されているからだろう。エッセーとは、似而非のことかとも思う」(30頁)とあった。

医学、消化器病学の専門書も、新人がどんどん書いていて、有り難い時代になったと思っている。ただ、

〈狐〉氏のいう「似而非」がいて、こちらが消化不良・下痢を起こしそうになる文章等に悩むことがある。この点、この新刊本の執筆者は、粒が見事に揃っていて、最近の分担執筆者の値打ちの「下落ぶりを一気に回復」した快挙になっている。

ところで、この本の最大の価値は、最も実戦的に書かれていることである。ビデオテープ付きというアイデアも、この一貫した戦略から、当然のように生まれたものだろう。素晴らしい症例と共に、このビデオは千金の重みがある。よく書き、よく編集した本とビデオであると、感服した。

ギッシングの『ヘンリ・ライクロフトの私記』(岩波文庫)に、「自分の本よりも図書館から借りだした本でよんだ方が書物はよめるといふ人がいるのも私は知っている。だがこれ

は私には理解できないことだ」(46頁)と、食欲を抑えて、必読の本を買ったことを書いているが、既に必要不可欠の知識と技術になっている消化器超音波内視鏡検査は、この書籍なくしては学べない。

ただ、Georg-Thieme の本の装丁に似ていることと、コストが高すぎるのが残念だ。

最近、コピーが簡単・安価にできることが、単行本の売れ行きを圧迫し、それが、本の定価を上げていることは、なにも医学書に限らないが、この本は、じっくり見て、考える性格のものであることを強調しておきたい。

● B5判 222頁 図133 写真264
原色図165 VIDEO(VHS・30分)
1992 定価27,810円(税込) 〒300

医学書院 刊(☎03-3817-5657)